

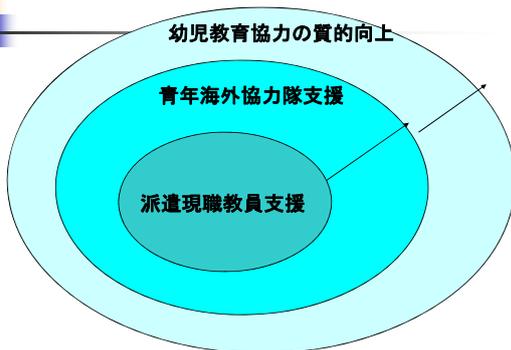
【幼児教育】
幼児教育分野における派遣隊員支援と
幼児教育協力の質的向上

浜野 隆
(お茶の水女子大学)

1. 事業の目的・方法

- 目的: 幼児教育分野の青年海外協力隊の支援を通じた幼児教育協力の質的向上
- 1. 協力隊活動広報・調査
- 2. お悩み相談: 派遣前、派遣中、帰国後
(メールでの相談受付、Q&A集の作成)
- 3. 教材・資料の作成・配布
- (ハンドブックの多言語翻訳、ビデオ、国際動向パンフ)

活動テーマ: 「幼児教育分野における派遣隊員支援と幼児教育協力の質的向上」



2. 今年度の活動・成果

- (1) 広報・調査活動
- 幼児教育分野は募集重点職種であるため、広報に力を入れた(昨年度の評価コメントにもとづく)。
- 国内の幼児教育諸機関と連携し、幼児教育分野の青年海外協力隊事業の広報を実施。
- 昨年度に続き、公立幼稚園・私立幼稚園調査に対する広報活動は継続。
- 昨年度実施したアンケート調査を集計し、結果を幼児教育関連施設に報告。
- 保育者養成機関、保育所のスタッフに対する調査・広報を実施。

(2) 幼児教育協力の国際動向に関する情報集約・提供

- 隊員を取り巻く国際機関の援助の理解
(UNICEFや世銀等の影響をかなり受けている)
- ①ECD国際動向パンフレット作成
- 国際社会の開発課題とECD支援との接点、途上国の乳幼児を取り巻く状況をマクロな視点から理解する重要性に言及し、そのための基本的知識や情報源を提供する。
- ②「EFAグローバルモニタリングレポート2007年版」フルレポートの翻訳: 出版済。

(3) 派遣候補生および派遣中隊員からの質問受付と助言

- 「幼児教育ハンドブック」配布(日本語・英語)。
- 各訓練所からのリクエストに応じて送付し、個別の問い合わせにも対応。
- 現在は「幼児教育ハンドブック[2]: 幼児教育協力Q&A(一問一答集)」の作成が進行中。
- 派遣隊員からの質問を集約し、回答できるものについては回答を送付している。
- 隊員の広域研修への助言、本学が実施している地域別研修(中西部アフリカ等)への候補生の参加促進を通じて、派遣前情報の入手、派遣先スタッフとのネットワーク作りを支援。
- 「幼児教育ハンドブック」の多言語化を進め、昨年完成したフランス語版は各訓練所ですでに活用されている。
- 帰国隊員の活動に関する助言も行なった。

3. 派遣中隊員がかかえる悩み(実際に寄せられた質問から)

- 1. 任国の教育事情
- 2. 文化の違い
- 3. 要請に関する問題
- 4. JOCVに対する理解が乏しい
- 5. CP(カウンターパート)との関係
- 6. 活動の内容・方向性について
- 7. 語学・コミュニケーションの問題

- 1. 私には、特定のカウンターパートがいないのですが、活動に際してどのような点に留意したらいいでしょうか。
- 2. 任国の教育に対してどこまで日本的な考えが良いのか、必要なかわりません。子ども中心主義の伝達をすべきかどうか、判断する方法を教えてください。
- 3. 任国には任国の保育の型があり、その国式の保育にどこまで手を入れていいかわかりません。活動の方向性を決めるいい方法はあるでしょうか。
- 4. 現在の活動は、個に対してアプローチしている状況なので、広がりを感じていません。「点」に対する活動を「面」に広げていくにはどのようにしたらいいでしょうか。
- 5. 配属先のJOCVに対する理解が乏しくて困っています。すでに赴任して10ヶ月になりますが、いまだに自分の配属先で私の位置づけをきちんと決められていません。相談できる現地の相手もいません。どうしたらいいでしょうか。

- 6. カウンターパートや指導主事が忙しく、時間が合わないため十分なコミュニケーションの時間が取れません。そのため、講習会の準備などにも支障をきたすことがあります。何かいい方法はないでしょうか。
- 7. 国民性の相違かもしれませんが、私の任国では、部下や上司の許可なしに仕事ができず、自主的な仕事が考えられません。指導主事が絶対的な権威をもっており、間違っても間違っているといえない雰囲気があります。私はときどき自分の思ったとおりのことを言うのですが、耳を傾けてもらえません。
- 8. 要請内容と現場のニーズが結びつきません。現場での需要がわかりません。そのため、活動の方向性が見えなくて困っています。どのように活動の方向性を見つけていったらいいでしょうか。
- 9. 語学力の問題もありますが、相手とのコミュニケーションが難しいと感じます。そのため、信頼関係を築くことがうまくできていません。信頼関係を築くための何かいい方法はあるでしょうか。

- 10. 自分が担当しているエリアの規模が大きすぎるので広く浅い活動になってしまうのではないかと不安を感じます。どのような点に注意して活動したらいいでしょうか。
- 11. 巡回先が多く各園との深いかかわりがなかなか難しいと感じます。どのような点に注意して活動したらいいでしょうか。
- 12. 任国の人が受身(時には怠け者)で困っています。なかなか指導主事自身で物事を企画したり提案しても、私にやらせようというフシがみられます。現地の人々のやる気を引き出すいい方法はあるでしょうか。
- 13. 露骨に物質的要求をされます。うまくかわす方法を教えてください。
- 14. 講習会を定期的にやっているのですが、その内容が浸透(定着)しにくいというのが悩みです。講習会を成功させるコツは何かありますかでしょうか。
- 15. 赴任先がお休みのバカンス中、どんな活動をしていいかわかりません。完全に休んでいる隊員の方もいますが、それでいいのかどうか疑問に思うときもあります。何かいいアドバイスがあればお願いします。

- 16. ニーズがわからない
- 17. 自分のやったことの効果が見えない(これまで何代も入って、何が変わったのか、実感が持てない)。
- 18. 協力の効果をどう確認したらいいのか。
- 19. 相手国の教育にどこまで介入していいのかわからない。
- 20. 体罰やスパルタ式教育に疑問を感じるが、どうすべきか
- 21. 任国の3歳児と日本の3歳児の発達の度合いは同じようなものと考えていいか？違うとしたらどれくらい違うのか？
- 22. 現地では、衛生についての感覚が日本と大きく違います。幼稚園はごみだらけですが、先生も子どもも全然気にしていません。どこまで衛生環境について手を入れていいのかわかりません。
- 23. 任地で、比較的若い職員の人には柔軟性があり、私の言うことをよく理解してくれますが、権力のある年配の先生方は柔軟性がなく、聞く耳を持ちません。その結果、私のやっていることは全く現地に浸透しません。何かいい方法はありますかでしょうか。

幼児教育以外の隊員も活用できるような工夫

- 寄せられた多くの悩みは、幼児教育分野のみならず、他分野の隊員もかかえている(であろう)問題
- 幼児教育のみならず、他分野の隊員にとっても参考になるような「Q&A集」を。
- 質問によっては、JOCV事務局(あるいは調整員)が答えたほうがいいのかも。

「幼児教育ハンドブック[2]幼児教育協力Q&A (一問一答集)」

- 「基礎知識」と「実践」からなる。
- 基礎知識: 国際教育協力の歴史、ECDの取り組みと実際、途上国の教育環境の実情、日本の経験を活かす、協力隊幼児教育の派遣の歴史、日本の幼児教育と任国の幼児教育の違い、など。
- 「実践」: 「活動の障壁(語学力の壁との戦い・活動が空回りする)」「マンパワーへのいらだち」「自己活動に対する過小評価」「活動後期のあせり」「異文化のなかで暮らす A. イスラム教の社会、B. 社会主義の社会」「現地の人との信頼関係を築く」「活動の幅の広げ方」「識字のための教材から子どもが楽しむ教材へ」などからなる。
- 幼児教育隊員のみならず、他分野の隊員にとっても有益な内容を盛りこむようにしている。

派遣隊員ニーズ(まとめと対応)

- ①活動の方向性に関して第三者の立場、専門的な立場からのコメントがほしい
- →拠点での対応:(Q&A集や隊員の集会に参加してのコメント)
- ②派遣先のニーズを把握したり、活動の効果を確認したりするための調査手法
- →拠点での対応:(Q&A集で対応)
- ③資料や教材が現地語になっていると良い
- →幼児教育ハンドブックの多言語翻訳

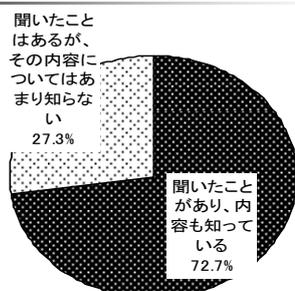
4. 最終成果物に向けた進捗状況

- 「Q&A集」は、本日配布資料が現状。来年度、さらなる海外調査を通じ、QもAもより深い内容のものにすることが課題。
- 回答については専門家の意見も交え作成していく。
- 「EFAグローバルモニタリングレポート2007年版」「国際動向パンフレット」は、ドラフトが完成
- 幼児教育ハンドブックの多言語化は、フランス語、ベトナム語、ラオス語が完成。
- 国内の幼児教育関係者調査(広報)はすべて終了

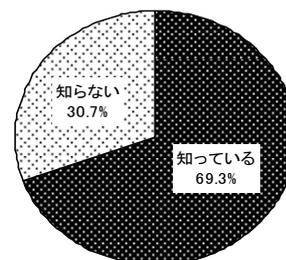
(参考) 保育者養成機関教員への調査

- 「大学のときの先生がJOCVについて授業で話してくれて、初めて(JOCVの存在を)知った」: ある隊員より
- 保育の専門家(研究者)からみたJOCV
- 保育者(幼稚園教諭・保育士)養成機関(大学・短大等)の教員への調査
- 全国の保育研究者から無作為抽出・郵送調査
- 有効回答数: 150
- 回答者属性: 教授53.7%、准教授30.0%、その他16.3%

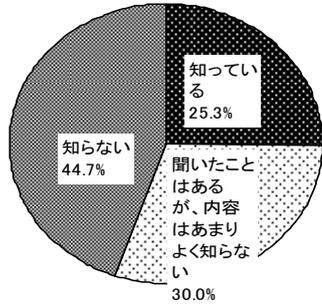
■【Q3】青年海外協力隊の認知度



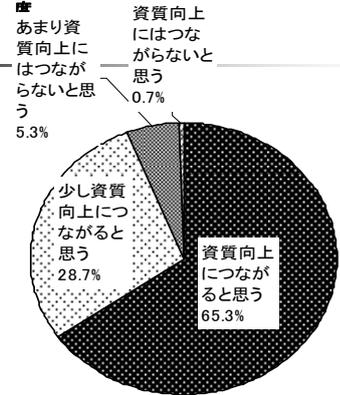
■【Q4】青年海外協力隊の「保育・幼児教育に関する職種」の認知度



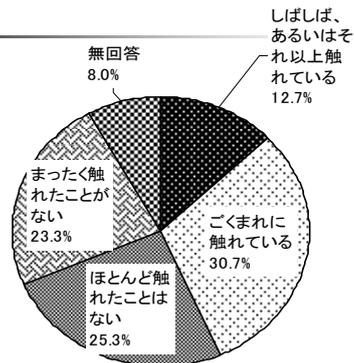
■【Q8】「現職教員特別参加制度」の認知度



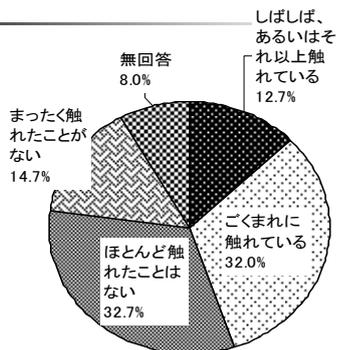
■【Q10】青年海外協力隊に参加することで保育者としての資質向上への期待度



■【Q11】保育者養成授業などでの開発途上国の保育事情について触れた経験



■【Q12】保育者養成授業などで、幼児教育における国際交流・協力について触れた経験



文部科学省「幼稚園教員の資質向上について」(平成14年)

- 「研究活動などは、教員の資質向上面で研修と同様の効果が得られる場合もあり、積極的に取り組むことも有効である。また、留学や青年海外協力隊への参加などの国際経験は、外国語を操り、外国文化を理解するだけでなく、言語・文化の違いを踏まえた意思疎通を行う能力や日本と異なる環境での経験により、自己や自らの社会的背景について客観的な理解が深まり、コミュニケーション能力や国際化時代に対応した幼児教育を進める能力の向上につながる。」

■【Q13-1】文部科学省からの答申の認知度

